

入試改革カルテ

徳島大学

アドミッションポリシー【生物資源産業学部】

【生物資源産業学部の受入方針】

生物資源産業学部では、バイオテクノロジーを応用した生物資源の生産、医薬、食品としての有効利用に関連する幅広い知識、国際的に通用する専門性、バイオ産業創出に必要な起業マインドをもった人材の育成を目的としています。そのため、生物資源産業学部では、次のような人物を求めています。

【求める人物像】※抜粋

- 関心・意欲・態度…バイオテクノロジー、生命、医療、食料、農業、環境に強い関心と学びに対する意欲があり、自分で明確な目標を持っている人
- 探究力…自分が関心をもったことを深く掘り下げようとする人
- 表現力…自分が伝えたいことを相手の視点に立って適切に表現できる人
- 知識・教養…本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき理科系・文科系にわたる知識・教養をもつ人
- 思考力・判断力…今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人
- 協働性…問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれないこと、対等の立場で協力できる人



▶1949年設置 ▶6学部10学科。学生数は約7600人
▶2016年に「生物資源産業学部」「理工学部」を新設し、総合科学部を1学科4コースに改組 ▶THE世界大学ランキング2016-2017総合順位601-800位。アジア版2017総合順位151-160位。日本版2017総合順位75位

背景と取り組み

背景	取り組み	指標
▶2014年12月発表の中教審答申への対応 ▶生物資源産業学部の新設にあたり、学部にあつた入学者選抜を設計する必要性があつた	▶アドミッション・ポリシーの実質化 ▶2018年度入学者選抜から、一部の推薦・AO入試において、四国地区国立大学連合アドミッションセンターで開発した「活動報告書」の提出を課す →多面的・総合的評価の一環	何を指標とするかは検討中。生物資源産業学部追跡調査ワーキングを設置し、入学後の追跡調査を行う
APとの整合性	入学者選抜方法とアドミッション・ポリシー(=求める人物像)の関連性を6つの観点(学部によっては5つ)で明示。選抜内容にも反映させる	
多面的・総合的評価	一例:活動報告書に記載された「意欲的に取り組んだ活動」(部活動、生徒会活動、プロジェクト活動など)の内容をふまえ、APに基づいて評価	
英語4技能	総合科学部の推薦入試I(英語能力重視型)において、外部英語検定試験のスコアを出願条件の一部として活用	
入学前教育	入学前学習教材として「入学前学習のすすめ(物理、生物)」「リメディアル教材4コース(数学、物理学、化学、生物学)」「スーパー英語」や推薦図書を用意(学部により異なる)	

プロセスとスケジュール

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
ステップ	学内組織の整備			APの実質化		新テスト対応、追跡調査・検証	
学内体制	▶徳島大学アドミッションセンター設置	▶四国地区国立大学連合アドミッションセンター設置	▶徳島大学総合教育センターアドミッション部門に組織変更	▶AP具体化に関するヘッドワーキング設置	▶生物資源産業学部追跡調査ワーキング設置	▶新テスト対応ワーキング設置	
入試制度			▶生物資源産業学部の入学者選抜を検討→APの策定、実質化	▶他学部でも、APの見直し、実質化、選抜方式との関係を可視化	▶具体化したAPを公表	▶一部の推薦・AO入試の入学者選抜に「活動報告書」を導入	▶(予定)新テスト対応の具体内容を公表

How to APPの実質化

↓求める人材像と選抜方法の関係を可視化

徳島大学

受験生に伝わるようAPと選抜方法を整理



総合教育センターアドミッション部門 部長 植野美彦
うえのよしひこ ●2014年5月徳島大学総合教育センターアドミッション部門に兼任。現在、総合教育センターアドミッション部門長(准教授)として、大学入学者選抜に関する調査・研究を行っている。四国地区国立大学連合アドミッションセンターを兼務し、アドミッションオフィサーとしても活動中。

徳島大学は、入学者選抜方法と求める人物像との関連性を対応表にまとめ、選抜要項等で公表しています【図表1】。「本学が受験生に求める力を明確に伝えること」「多面的・総合的評価ができていくか可視化」が主たる目的です。入試改革に取り組み始めたのは、中教審答申が発表された2014年12月からです。ちょうど生物資源産業学部の新設を控えていたため、当学部の入試設計から着手しました。

まず、学部APを本質的な部分から考え始めました。求める人物像に必要なのは、意欲、能力、学力的3要素を踏まえ、「関心・意欲・態度」「探究力」「表現力」「知識・教養」「思考力・判断力」「協働性」という6つの重点評価項目に整理。それぞれを受験生に伝わるように、具体的に示しました。次に、各項目をどの選抜方法で見ているのかを決め、それらを的確に測れる内容に精査しました。このようなAPと選抜方法の完全な連動化は学内外から評価を受け、翌2015年からは全学展開を開始し、新APを公表しました。重点評価項目をどの選抜方法で測るかという点は、学部によって重視する力が異なるため、各学部が独自に行っています。これにより、「従来の選抜方法では、ある項目の評価が十分にされていなかった」ことがわかり、改善につながることがありました。

また、入試を改革した以上は、その後の検証が必要で、そこで昨年度、生物資源産業学部で追跡調査ワーキングを設置しました。今後の課題はアドミッション組織の充実です。多面的・総合的評価は負担を惜しむべきではありません。また、入試を改革した以上は、その後の検証が必要で、そこで昨年度、生物資源産業学部で追跡調査ワーキングを設置しました。今後の課題はアドミッション組織の充実です。多面的・総合的評価は負担を惜しむべきではありません。

【図表1】入学者選抜方法と求める人物像との関係性～入学者選抜方法における重点評価項目(生物資源産業学部の例)

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	探究力	表現力	知識・教養	思考力・判断力	協働性
(センター試験)	一般(前期) 一般(後期) 推薦II				○	○	
総合問題	一般(前期) 一般(後期)		○	○	○	○	
集団討論	推薦I 推薦II			○		○	○
集団面接	一般(前期) 推薦II	○		○			
個人面接(口頭試問含む)	推薦I	○			○		
調査書	推薦I 推薦II	○					○
活動報告書	推薦I 推薦II	○					○
学びの設計書	推薦I 推薦II		○	○			

せんが、各学部の教育・研究に支障があつてはなりません。アドミッション組織でしっかり支援していく必要があります。そのためには、評価者の育成等が急務になりますし、連合センターとのさらなる協働も重要だと考えています。

*1 「新しい時代にあふくさい高次接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について(答申)」
*2 四国の国立5大学(愛媛大学、徳島大学、山口教育大学、香川大学、高知大学)で設立。高校生が活動歴を記録する進学支援サイト「今ワグ」も連合センターで開発